

# 大谷崎展 文豪と五人の女神

没後50年 文豪は時空を超えて

芦屋市谷崎潤一郎記念館

2015年春の特別展



**せい子** 千代の妹。くつきりとした顔立ちに長い手足、小悪魔的魅力に満ちた女性で、その奔放さが谷崎をひきつけた。痴人の愛のヒロイン・ナオミのモデルである。



**千代** 最初の妻。旧姓・石川。おとなしく、古風な女性だったという。谷崎はその妹に執着するようになり、親友の佐藤春夫が千代に寄せる同情はやがて恋心となっていく。



**松子** 三番目の妻。船場の大商家の御寮人であり、その四姉妹が『細雪』の四姉妹に投映される。『盲目物語』『蘆刈』『春琴抄』などのヒロイン像のイメージを谷崎に与えた。美しさで教養を兼ね備え、谷崎文学の最高峰を支えた女神といえよう。(1934年5月、谷崎と共に芦屋・打出の家で)



## 谷崎と松子の書簡5通を初公開

谷崎と松子、その妹の重子らの間で交わされた未公開書簡288通が現存していることが2014年秋にわかりました。そのうち5通を初公開します。谷崎の書簡は「御寮人様の御側に任へ御身の廻りの御用のみ勤めさせて頂度」など「春琴抄」の主従関係を思わせる内容を含む貴重な資料です。松子の書簡は谷崎と最初の妻・千代との離婚前後の様子がかがわれるほか、巻紙に残るたおやかな筆跡が当時の優雅さをしのばせます。



**丁未子** 二番目の妻。旧姓・古川。その美貌は広く知られる。谷崎が松子との関係を深めるにつれ、結婚生活は二年ほどで破綻。「武州公秘話」などには、人の女性の対比が暗示されているという。



**千萬子** 甥の妻。『癡癡老人日記』のヒロインは自身を戯画化しつつ、老人の性根の執着を描いた。小説は一九二一年の夏から口述筆記で始められ、四年後の夏、文豪は世を去る。

**会場** 芦屋市谷崎潤一郎記念館  
(兵庫県芦屋市伊勢町12番15号)

**会期** 2015年  
3月28日(土)～6月28日(日)

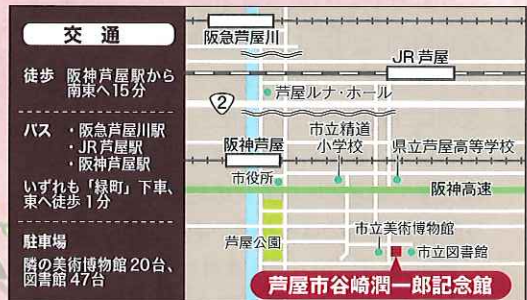
月曜休館(5月の連休中は開館し、7日休館)

※展示品は時期によって入れ替えがあります

**開館時間** 午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

**入館料** 一般 400円 大高生 300円  
65歳以上200円 中学生以下無料  
団体(20人以上)は2割引

谷崎潤一郎(1886～1965)とその文学にはいつも女性への愛と賛美がありました。女性賛歌によってさらなる高みへと自らを駆り立てた作家それが谷崎なのです。『猫と庄造と二人のおんな』『春琴抄』『細雪』『癡癡老人日記』。そうした作品を生む源泉となった5人の女性がいきました。最初の妻・千代、その妹・せい子、2番目の妻・丁未子、3番目の妻・松子、甥の妻・千萬子。本展では5人を女神ととらえて谷崎文学の本質に迫ります。展示資料は『痴人の愛』自筆原稿と初版本(1925年刊)、谷崎と千代、その再婚相手である佐藤春夫連名の「離婚挨拶状」、小出楯重の『蓼喰う虫』挿絵原画、松子愛用の琴など約100点。谷崎にゆかりの深い阪神間の懐かしい風景をテーマにしたロビー展も展開します。没後50年の春から初夏にかけての企画は谷崎文学を生み出した泉への旅でもあります。ご来館下さい。



芦屋市谷崎潤一郎記念館 TEL 0797-23-5852 FAX 0797-38-3244

〒659-0052 兵庫県芦屋市伊勢町12番15号 ホームページ <http://www.tanizakikan.com>  
Eメール [ashiya-tanizakikan@rhythm.ocn.ne.jp](mailto:ashiya-tanizakikan@rhythm.ocn.ne.jp)

